

丹沢 葛葉川本谷

～初めての沢登り～

日程：2015年8月9日（日）

メンバー：藤野（L）、松山、深澤淳

報告：深澤淳



小滝。葛葉川は小滝が沢山あります。



林道の先の小滝

沢登りは初体験でした。沢の景色はきれいで、冷たい滝の水を浴びて気持ちよく、岩登りも楽しめて、新しい山の楽しみ方を教わりました。

朝8時、予定通り渋沢駅で3人集合しました。快晴です。暑くなりそうです。すぐ駅前からタクシーに乗り、20分ほどで入渓口の「葛葉の泉」に到着しました。立て看板には、「山ヒルを発見したら塩をかけて退治してください」という説明が書いてあり、横にある台の上には、透明なビニール小袋入りの塩が積まれていて、緊張が走ります。肌に吸いついたヒルは無理にはがさず、塩をふりかけるかライターの火を近づければ、すんなり離れるらしいです。ああ恐ろしや。

ここで藤野さんの特製ヒル避け剤の登場です。プラスチックのスプレー容器の中には、謎の透明な液体が入っています。藤野さんにならって、私達も靴やひざ下に吹き付けました。少し強い臭いがします。その正体が気になりましたが、怖くて聞けませんでした。危険そう！？

さてハーネスやヘルメットなどを着けて身支度が整いました。藤野さんの後について沢に入ります。すねくらいの深さの水流をジャブジャブ歩いて、なかなか楽しいです。凹凸のない岩は慎重に乗らないと滑りそうですが、靴裏がフェルト素材の沢靴をはいているおかげで順調に歩いていきます。小さい段差の滝が多数ありますが、そのうち落差3mほどの滝が現れました。藤野さんは滝の正面から登っていきます。なるほど、これがシャワークライミングか、とワクワク。松山さんに続いて、私も手足にたくさん水を浴びながら岩を登って無事にクリア。爽快です。その先も様々な姿の滝の連続で、飽きることはありません。この沢で一番難しいという板立ノ滝は、垂直に近い落差8mほどの滝で、ここは敬遠して右から巻きました。

順調に遡行を続けていると、何やら右の地面に動く気配がします。「カエル発見！」茶色の大きな

ヒキガエルが、土の急斜面を登ろうとしていました。するとすぐに松山さんが飛んできて、平気でカエルちゃんを捕まえたので、びっくり。私が急いでカメラを向けると、松山さんはカエルちゃんを顔の前に抱き上げて、なんと頬ずり！カエルが大大大好きな松山さんなのでした。

沢の上に橋がかかり林道が横切っているところに来ました。一旦林道に上がって休憩をとりました。この大平橋が葛葉川の中間ポイントで、先着の二人組はここから下山するとのこと。我々は軽く食べた後、さらに上流を目指します。小滝が連続して面白いです。

富士形の滝は、滝の左右に広く岩が露出していて、いろいろなルートで登れそうでした。先行の5-6人のパーティはロープを使わず、各自好きなルートから登って行きました。我々は先行パーティが登り切るのを待って、残置ハーケンのある右側からロープで確保して登りました。



小滝を登る松山さん。右の二人は先行P。 富士形の滝。取り付いているのは先行P。

これを越えるとしだいに沢は涸れ、崩れた箇所が多くなりました。5月時点は問題なかったという最後の一枚岩は、左側が崩れており、そこを踏んで越えました。そこから少し上部の左斜面に、薄い踏み跡がありましたが、藤野さんが「尾根に登るところはここではない。もう少し先」とのことで、先に進みましたが、そこは今にも崩れそうです。「やはり戻って、先ほどの踏み跡から尾根を目指そう」となりました。薄い踏み跡の前まで戻って大休憩。各自、食糧を食べ、登山靴に履き替えました。落ちていた枝を拾ってストック代わりにして、薄い踏み跡をたどって山に入っていました。そのうち踏み跡は不鮮明になり、苦労しながら、ひたすら急斜面を登ること数十分、やっと三ノ塔尾根の登山道に出たときは、ほっとしました。またまた大休憩。藤野さん曰く「丹沢の沢はそれほどでもないが、一般に沢は詰めがきついとこが多いもの」とのこと。いやいやこの詰めもなかなかきつかったです。

そこからのんびりと約2時間下って、山岳スポーツセンターに立ち寄りしました。ここでシャワーを浴び、着替えてすっきりしました。大倉バス停前の店に寄り、3人で乾杯！！生ビールが格別でした。結局ヒルは出ませんでした。

初めての沢登りはとても気持ちよかったです。ありがとうございました。

<コースタイム>

8:50 葛葉の泉広場 出発～10:10 板立ノ滝～10:30-10:45 大平橋 休憩～11:40 富士形ノ滝～13:00 尾根へ向かって出発～13:50 三ノ塔尾根の登山道に出る～15:40 山岳スポーツセンター（シャワーを浴びる）～16:30 大倉バス停（戸川公園）